

Sunday

4/23

江戸時代の多久城下に想いを馳せ

“龍孫の郷” 散歩道ノルディックウォーク

「新日本歩く道紀行100選」に認定された多久城下散歩道を歩くイベントが多久市観光協会主催によって開催され、市内外から40人が参加。

全日本ノルディックウォーク連盟の重光浩さんが、ノルディックポールの使用法・走法・健康法などを話され、ウォーキングがスタート。

参加者は多久聖廟を中心に12か所の案内ポイントをのんびり巡りながら、多久城下町に思いを馳せ、心地よい汗を流していました。



▲晴天に恵まれ、春の城下町を巡る参加者たち



Monday

4/24

時を超え、日韓の交流がさらに深まる

韓国・国立海洋博物館との協約書を締結

江戸幕府末期の佐賀の人づくりにも貢献した、多久出身の儒学者・草場佩川は、1811年に朝鮮通信使が来日した様子を詳細な文章と美しい挿絵で『津島日記』に記しました。津島とは、現在の対馬のことです。

通信使船や通信使の服装、両国が持ち寄ったお土産までもが詳細に描かれており、「韓国にとって、当時を知る資料として大変参考になる」ということから、2012年の国立海洋博物館の開館に際し、展覧会への出品と複製品の制作依頼を受け、展示が行われました。

今回は新たに、多久市が所有する『津島日記』を韓国語に翻訳し、海洋博物館から学術資料としてハングル訳で出版するための協約を結びました。日韓の交流がさらに深まる一助となることを期待します。

ARで動画を配信
ARで動画を配信
ARで動画を配信



▲韓国・国立海洋博物館の孫在學館長（左）と横尾市長が会見

▲上・中・下3巻からなる『津島日記』



▲緊張感のある災害対策本部の防災訓練

いざという時に備えて！

防災訓練を行いました

Monday

4/24

大雨による土砂災害を想定し、警察署、消防署、消防団と連携して「多久市災害対策本部防災訓練」を行いました。

市役所内に対策本部を設置し、状況に合わせ対策会議を行い、情報伝達や避難所運営の訓練など本番さながらに実施したところ、さまざまな課題や改善策が見えてきました。

今後、各機関が更に密な連携を取り合い、いざという時に備えていきます。